



今こそ「ONE TEAM」となり、JR産業に集うすべての仲間の雇用と生活を守ろう

2 0 2 1 年 3 月 3 日

日本鉄道労働組合連合会

J R 東 海 ユ ニ オ ン 第 2 回 団 体 交 渉

定昇・ベア・手当改善を強く主張

保存休暇の使用事由について、「出産立会日」の追加を確認！

J R 東 海 ユ ニ オ ン は 3 月 2 日、2 0 2 1 春 季 生 活 闘 争 の 第 2 回 団 体 交 渉 を 行 っ た。当 日 は、標 準 乗 数 を「4」とし た 定 期 昇 給 の 年 度 初 完 全 実 施 や ベ ー ス ア ッ プ 1,000 円 な ど の 基 準 内 賃 金 の 改 善 と、制 度 改 善 要 求 の 内、労 働 時 間 管 理 の 適 正 化、長 時 間 労 働 の 是 正、業 務 量 に 応 じ た 適 正 な 要 員 配 置、業 務 改 革 の 推 進、業 務 効 率 化 や 生 産 性 向 上 に 資 す る 各 種 機 器・設 備・シ ス テ ム の 導 入・改 善、業 務 実 態・生 活 実 態 に 見 合 っ た 各 種 手 当 の 支 給 な ど に つ い て 協 議 し た。

交 渉 で は、基 準 内 賃 金 の 引 き 上 げ と と も に、総 対 話 集 会 で 寄 せ ら れ た 組 合 員 か ら の 意 見 を 基 に、別 居 手 当 や 非 常 呼 出 手 当 な ど の 基 準 外 賃 金 の 改 善 を 強 く 求 め た。

な お、会 社 か ら は、保 存 休 暇 に つ い て、出 産 立 会 日 に も 使 用 で き る よ う 見 直 す こ と が 明 ら か に な っ た ほ か、業 務 効 率 化 や 生 産 性 向 上 に 向 け た 具 体 的 な 取 り 組 み と し て、I C T 分 野 の 体 系 的 な 研 修 を 計 画 し て い る こ と や、仕 事 の 進 め 方 の 見 直 し に 向 け た 専 属 体 制 の 構 築 を 検 討 し て い る こ と、ク ラ ウ ド 活 用 に あ た っ て の 標 準 を 制 定 す る こ と や、R P A の 現 業 機 関 へ の 導 入・利 用 を 検 討 し て い る こ と、電 子 契 約 サ ー ビ ス を 全 社 に 導 入 す る こ と な ど が 示 さ れ た。

J R 東 海 ユ ニ オ ン は、組 合 員 の こ れ ま で の 努 力 に 報 い る べ く、「ハ ー ト フ ル カ ン パ ニ ー」の 実 現 に 向 け、引 き 続 き 団 体 交 渉 を 展 開 し て い く こ と と し て い る。

【主な議論（主張）内容】

I 基準内賃金の改善について

- (1) 標準乗数を「4」とする定期昇給の実施 (2) 基本給引上げ「1,000円」
(3) 調整手当の支給地区拡大 (4) 扶養手当の増額 (5) 役付手当の増額

II 制度改善要求について

1. 労働時間管理の適正化、長時間労働の是正
総実労働時間、移動時間の扱い、One STEP、技企課題、フレックスタイム制
2. 適正な要員配置、業務改革の推進
要員配置、年休、保存休暇
3. 業務効率化、生産性向上に資する各種機器、設備、システムの導入、改善
業務効率化、次期Jネット、業務ツール、クラウド活用、RPA、契約等効率化
6. 業務実態、生活実態に見合った各種手当支給
通勤手当、別居手当、技能手当、非常呼出手当、職務手当、研究員手当、
出向作業手当、旅行雑費、その他手当